

# 2022 (令和 4) 年度 事業計画

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

今年度もコロナ禍による各種イベントへの制約が懸念される中、オンライン会議システムの利用などにより、学術講演会や研究会、初等磁気工学講座などの魅力溢れる各種イベントの開催を進める。また、岩崎コンファレンスなどのイベントにより他学会との連携の促進を図るなど、各種施策の実行を通して、会員への更なるサービス向上に努めていく。学会の財政状況について、各委員会のこれまでの地道な努力により、近年は一定の収支改善が見られているが、コロナ禍による一時的な支出減によるところも大きく、抜本的な赤字体質からの脱却を果たすため、引き続き、会員数増や、魅力あふれる各種イベントの企画・実行による参加者数増等、財務体制改善に関する取り組みや、ガバナンスの強化を一層進める。

本年度は特に下記の 6 点の活動を重点的に進める。これにより、磁気の基盤研究とその産業応用を牽引し、社会に貢献できる学会として邁進する。

## ◎学会活動のポイント

1. **理事会と事務局の密接な連携による学会業務の推進機能の強化・充実**
2. **コロナ禍後も見据えた財務体制の強化**
3. **新分野創出を担う専門研究会の活動の周知・活性化**
4. **学会連携の促進による新分野の構築および活性化**
5. **HP や Facebook の活用により本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動の強化**
6. **国際会議 Intermag2023, IcAUMS2024 の確実な準備**

## I 事業の状況

### 1. 研究発表会、講演会等の開催(定款4条1号)

#### 1. 1 学術講演会

- ・ 磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として学術講演会を年度内に 1 回開催する。
- ・ 第 43 回学術講演会までと同様に、参加者来場形式での開催を基本とするが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)をめぐる社会情勢を踏まえ、オンライン形式での開催にも対応できる形で準備を進める。
- ・ 2022 年 09 月 06 日(火) から 09 月 08 日(木) まで、信州大学 長野キャンパス(長野県長野市)において第 46 回日本磁気学会学術講演会を開催する。シンポジウムセッション・オーラルセッションに加えて、ポスターセッションを併設する予定である。
- ・ COVID-19 の感染拡大継続により、やむを得ず参加者来場形式開催が困難な場合は、第 46 回学術講演会をオンライン形式で開催する。
- ・ フェロー制度の制定に伴い、フェローとなられた方々の業績を讃えるイベントとして、「フェロー記念講演」を学術講演会内において実施する。

#### 1. 1. 1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

- ・ 第 46 回学術講演会で開催予定のシンポジウムを引き続き公募制として、魅力あふれるプログラムの構成を進める。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

### 1. 1. 2 学術講演会における非会員の講演登壇

- ・ 第 46 回 学術講演会も引き続き非会員による講演登壇を可能とする。非会員であっても登壇料の支払いを以って講演を認めることにより、投稿数の増加を期待する。

### 1. 1. 3 学術講演会の概要集のウェブ配信化

- ・ 第 46 回 学術講演会の概要集についても昨年同様にウェブ配信とし、会員の利便性の向上を図る。別途料金を事前に支払うことで、概要集を従来の冊子形式で受け取ることのできる従来のサービスも一部継続する。

### 1. 1. 4 学術講演会の賛助会員の事前ウェブ登録の実施継続

- ・ 第 46 回 学術講演会においても、賛助会員の事前登録を学術講演会ホームページから引き続き行えるようにする。賛助会員の事前登録を実施することにより、賛助会員の利便性向上だけでなく、受付業務の簡素化や学術講演会参加者の増加も期待できる。

### 1. 1. 5 学術講演会におけるポスターセッションの継続

- ・ 第 42 回、第 43 回 日本磁気学会 学術講演会で行ったポスターセッションが好評であったことから、第 46 回 学術講演会においても、ポスターセッションの開催を継続する。ポスターセッション併設により、発表形式の多様化を実現し賛助会員や会員にとって参加し易くするとともに、磁気の専門家同士による活発な情報交換の場を提供して、学術講演会の価値向上に努める。

### 1. 1. 6 フェロー記念講演の開催

- ・ 第 46 回 学術講演会では、昨年度フェローの称号を新たに授与された方々によるフェロー記念講演を開催する。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

## 1. 2 研究会

- ・ 新しく、また興味深い磁気およびその応用を主題とした研究会を、年 5 回を目安として定期的で開催する。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。

	開催期日	研究会の主題
第 237 回	22 年 7 月	スピントロニクス
第 238 回	22 年 10 月	マテリアルズインフォマティクス
第 239 回	22 年 11 月	未定
第 240 回	22 年 1 月	シミュレーション技術
第 241 回	22 年 3 月	未定

- ・ 研究会についても COVID-19 の感染拡大状況を踏まえ、開催形式等(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

## 1. 3 講習会、公開講演会など

- ・ 「日本磁気学会 初等磁気工学講座」と「日本磁気学会 サマースクール」を、6 月に開催する。

電気学会との共催にすることで、参加人数の増加を期待する。

- ・ 主に小学生を対象とした、磁気に関する啓蒙的講座(公開講演会)を1回程度開催する。
- ・ 当学会の活動を広く知ってもらい入会を促すことに主眼を置いた「MSJ講習会」の企画・開催を検討する。
- ・ 講習会、公開講演会についても、COVID-19の感染拡大状況を踏まえ開催形式等(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

#### 1.4 専門研究会

- ・ 専門研究会の活動は将来の学会を担う重点項目と位置づけ、理事会主導で活性化と新展開を進める。
- ・ ナノマグネティックス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、バイオマグネティックス専門研究会、エネルギーマグネティックス専門研究会、磁気センサ専門研究会をそれぞれ年2回以上開催する。
- ・ 研究会への参加者を増やすための取り組みとして、研究会開催案内専用のメーリングリストを設け、運用を開始する。
- ・ 専門研究会についても、COVID-19の感染拡大状況を踏まえ開催形式等(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

#### 1.5 岩崎コンファレンス

- ・ 第8回岩崎コンファレンスを Society5.0 に資する磁性材料等をテーマとして開催する。開催時期は12月、開催形態は会場(仙台)での対面とリモートによるハイブリッド形式を予定している。

## 2. 学会誌その他の図書の刊行(定款4条2号)

### 2.1 学会誌および学会報の発行

- ・ 2022年度内に、学会誌「Journal of the Magnetism Society of Japan」を、Vol.46, No.3(通巻第321号)から Vol.47, No.2(通巻第326号)まで隔月で年度内に6回発行する。「Journal of the Magnetism Society of Japan」は英語の本論文やレビュー等、磁気の研究を掲載する。
- ・ 学会報「まぐね」を Vol.17 No.2(通巻第128号)より Vol.18, No.1(通巻第133号)まで隔月で年度内に6回発行する。「まぐね」は特集記事(解説、トピックス)を中心に、論説、連載講座、磁気研究よもやま話、新製品・新技術等を掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。
- ・ 学術講演会での講演に関する論文を集めた「日本磁気学会論文特集号(Transaction of the Magnetism Society of Japan Special Issues)」を Vol.6, No.1(通巻第11号), Vol.6, No.2(通巻第12号)の2回発行する。
- ・ 学会誌および学会報の充実のため、専門研究会論文の学会誌への投稿を推進するとともに、賛助会員の学会報まぐね「新技術・新製品コーナー」への積極的投稿をサポートする。
- ・ 学会誌の論文審査が迅速化したことや、投稿手順を分かりやすくホームページやチラシ等で示すこと等、学会誌への投稿の魅力を広く会員にアピールすることによって、投稿件数の持続的な底上げを図る。
- ・ 学会誌もしくは論文特集号へ投稿された、優秀な論文に対して MSJ 論文奨励賞を授与し、若い研究者の意欲増強を図る。

## 2.2 出版活動の推進

- ・ 本年度も編集委員会が中心となって出版事業を推進する。2022年度は、教科書シリーズ1巻の発行を目指して、原稿の収集、刊行の手続きを進める。

## 2.3 Journal of the Magnetism Society of Japan の活性化と SCI 登録に向けた取り組み

- ・ Journal of the Magnetism Society of Japan の SCOPUS に登録に引き続き、2020 年度に SCI 登録申請を行った。SCI 審査結果の連絡を待ち、フォローアップする。
- ・ Journal of the Magnetism Society of Japan の活性化として以下の取り組みを実施する。
  - (1) 論文の査読の迅速化  
迅速な論文査読を徹底する。
  - (2) Review 論文の充実  
理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼する。  
学会賞・業績賞・優秀研究賞受賞者による Review 論文を掲載する。
  - (3) 投稿論文の充実  
専門研究会からの投稿を募る。  
投稿論文 55 本を目標とする。理事会や各委員会へ協力をおねがい。  
引用数の拡大に関する呼びかけを進める。
  - (4) 電子ジャーナルの OPEN ACCESS を継続する。

## 3. 出版物等の広告および会員獲得のための広報活動強化

- ・ 出版物等の広告と会員数拡大を目指し、ホームページの充実と Facebook の活用を通じて戦略的な勧誘活動を行う。理事会が主導し広告代理店と協力して広告掲載数を増加させるとともに、会員への情報提供の場を拡げ、企業・会員の双方にとって魅力ある情報交流の場を提供する。
- ・ チラシ・パンフレット・ポスターなどの紙媒体を用いて、学術講演会、研究会、専門研究会などにおける会員・賛助会員の勧誘活動を推進する。
- ・ 技術情報サービスやメールマガジンによる情報提供により会員のメリットを高め、会員の獲得・維持を図る。

## 4. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款4条4号)

- ・ 2022年度も、学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞(内山賞)、学生講演賞(桜井講演賞)、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。ただし、コロナ禍により学術講演会がオンライン開催となった場合は、表彰式の開催形態と時期について、総務と企画で検討する。
- ・ 学会における継続的な活動を通して磁気学の学理と応用に関する研究の進展に多大な貢献があった者に対して、フェローあるいはライフフェローの称号を授与する。特にフェローには論文誌へのレビュー記事の投稿や次年度の学術講演会におけるフェロー記念講演等、学会活動の活性化・論文誌の魅力向上につながる活動への協力をお願いする。
- ・ 本学会を代表する表彰である学会 3 賞(学会賞、業績賞、優秀研究賞)の選考のあり方について、分野の偏りの是正や透明性の確保など、選考の抜本的な見直しを理事会で検討し、実施する。
- ・ 学術講演会にて懇親会が開催された場合、MSJ 論文奨励賞・ポスター講演賞・学術奨励賞・

学生講演賞の受賞者を懇親会へ招待し、会員間の交流の促進および継続的な活躍を動機付ける場を提供する。

## 5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款4条5号)

- ・ 米国電気電子技術者協会(IEEE)との National Society Agreement (NSA)および IEEE Magnetics Society との Sister Society Agreement (SSA)に基づく相互協力を継続する。2019年度にスタートした「IEEE Magnetics Society の各 Japan chapter の代表者」と「MSJ の会長・副会長・理事の代表者」との交流の機会を今年度も継続し、他学会との連携を推進する。
- ・ 国内関連学会に加え、国外の関連学会等では、韓国磁気学会(KMS)、台湾磁気技術協会(TAMT)、中国、ロシア、ベトナム等と Asian Union of Magnetics Societies (AUMS) を中核として相互協力および情報交換を行う。その中で、AUMS カウンシルミーティングにおいて、IcAUMS2024 等に向けた密な情報交換を行う。更に、ポストコロナを踏まえた欧米を含む関連国際会議との連携についても検討を進める。
- ・ 学術講演会における英語発表促進の検討など、国際的な参加者数の拡大を図るほか、INTERMAG や MMM など国際会議の参加者のうち、本学会未入会者に対する入会勧奨や学術講演会への参加喚起を実施し、本学会のすそ野を広げる活動を進める。
- ・ Intermag2023(2023年5月に仙台国際センターで開催予定)について、現地実行委員会と協力して準備および周知活動を進める。
- ・ コロナ禍のため延期となった Joint IcAUMS-ISAMMA2020 に代わり、IcAUMS2024(2024年3月に沖縄コンベンションセンターで開催予定)について、AUMS や現地の大学教員と連携して、日本の出入国管理などコロナ禍の影響を考慮しつつ準備活動を進める。

## II 会議

令和4年度に開催する主要な会議である総会、理事会および顧問会等は次により実施する。

### 1. 総会

- ・ 通常総会は 2022(令和4)年6月27日(月)に開催する。2021年度事業報告および収支決算、2022年度の事業計画および収支予算などについて、審議および議決する。
- ・ コロナ禍のため、オンライン・オンサイト併用で開催する。

### 2. 理事会

- ・ 2022年度の理事会は、原則として6回開催する。総会および顧問会への提出議案の作成、総会での決定事項の実施、会務の整備、各事業の充実などについて審議を行う。コロナ禍の影響を考慮し、オンライン会議主体で実施する。
- ・ 公益法人としてのガバナンスおよびコンプライアンス体制強化のため、副会長担務の明確化(運営戦略担当、学術連携担当)による委員会相互の連携強化、および、理事会決定事項の実行責任・過程の見える化を継続して推進する。
- ・ 特任理事(男女共同参画担当、学会連携担当、国際会議担当)を総務委員会内に置き、学会として強化すべき諸課題を集中的に解決できる体制を継続する。
- ・ 広告数増を目指した活動や、学会間連携に関する検討など、理事会で積極的に対応すべき事象に特化したタスクフォースを立ち上げることによって、会長のガバナンスのもと、副会長(運営戦略担当)を中心として柔軟に対応できる体制を確立し、問題解決を確実に実行してい

く。

- ・ 本学会の国際プレゼンスの向上を目指して、副会長(学術連携担当)を中心とするタスクフォースを設置し、各種施策の立案実施に向けた検討を進める。

### 3. 顧問会、懇談会

- ・ 学会の諸活動に関して会長、副会長および理事会に意見を具申する機会として、学術講演会の期間中に顧問会を年1回開催する。
- ・ 名誉会員および賛助会員の学会活動に対する意見を収集するため、学術講演会の期間中に名誉会員懇談会および賛助会員懇談会をそれぞれ年1回開催する。
- ・ 懇談会等において収集した意見について、副会長(運営戦略担当)および総務理事が中心となって検討を行うとともに、課題に応じて担当する理事を指名し、各委員会で確実に解決・実行を進める。
- ・ コロナ禍により学術講演会がオンライン開催となった場合は、顧問会、並びに各種懇談会等は実施しない。

## Ⅲ 公益法人運営体制の確立について

公益法人である本学会が今後も持続的に発展できるよう、コンプライアンスに留意しつつ、理事会が主導して運営を進める。本学会の活動の大きな柱である、学会誌の発行、学術講演会・研究会・専門研究会の開催は、これまで通り魅力あふれるよう継続していく。

### 1. 理事会主導による学会改革活動

- ・ 日本磁気学会の継続的発展を図るため、財務体質の改善や会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。
- ・ 公益法人として、ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化に関わる業務を推進する。
- ・ 会長のリーダーシップのもとに副会長の担務明確化および各委員会の横の連携を図り、各種の課題に着実に対応できる強い理事会体制を構築する。

### 2. 財務体制の強化

- ・ 財務委員会の活動を拡大し、予算・執行状況の管理のみならず、財務体制の強化に関する施策案を取り纏め、各委員会へ提言していく活動を推進する。学会の赤字体質脱却に向け、各委員会への働きかけを推進し、会員や企業に魅力あふれる学会の構築を目指す。
- ・ 副会長(運営戦略担当)をトップとする広告タスクフォースの活動を継続し、学会誌、学会報、学術講演会概要集等における広告掲載数ならびに企業展示の増加を図る。コロナ禍のための困難も予想されるが、今年度も理事会の責任で、広告・展示勧誘活動を継続する。
- ・ 財務基盤の抜本的改革が早急に求められているため、会費および学術講演会の参加費等の値上げを含め、会員の意向を確認しつつ理事会で議論を深め、今後の方針を決定する。
- ・ 将来の学会を支える若手会員増加のための各種施策を検討し、学会活動の持続的な活性化に反映させる。

### 3. 本年度の各委員会活動ポイント

#### ◎総務委員会:

- ・ 理事会決定事項の進捗把握を一層進めると共に、引き続き事務局と拡大定例会を毎月開催して連携を深め、確実な推進を行う。

- ・コロナ感染状況等に応じて、事務局職員は在宅勤務を柔軟に活用する。
- ・賛助会員の学会運営への参画に対する各種取り組みを推進する。
- ・男女共同参画事業など、会員の満足度を向上させる各種取り組みを推進する。
- ・パワーマグネティクス分野などの、今後大きな発展が見込まれる研究分野について、他学会との連携を強力に推進する。
- ・Intermag2023, IcAUMS2024 などの国際会議の開催準備を中心となって進める。
- ・財務状況の改善並びに新規会員の掘り起こしに向けた、大学並びに高専の研究室を対象とした新賛助会員制度を設計し、運用に向けた準備を行う。
- ・総会委任状提出や役員選挙投票の電子化を事務局と検討する。

#### ◎財務委員会：

- ・財務内容に大きくポジティブ/ネガティブなインパクトを与える活動の洗い出しを進める。
- ・会費収入増にむけた施策を提言する。
  1. 年会費見直し
  2. 新しい磁気技術分野の会員獲得
- ・財務改善のため支出減に向けた施策の検討と提言を進める。  
委員会活動費の見直し(web 会議の試行・奨励)、各種印刷物の電子化推進など

#### ◎企画委員会：

- ・賛助会員や会員にとって魅力的で参加し易い研究会、初等磁気工学講座・サマースクール、学術講演会を開催・運営する。
- ・需要が大きく成長が見込める磁気関連分野(パワーエレクトロニクス関係など)に関する初等的入門講座の実施を企画する。
- ・専門研究会の活動の活性化を進める。
- ・学術講演会における公募シンポジウムの充実を図る。

#### ◎編集委員会：

- ・学生にとって論文投稿が魅力的となるべく、MSJ 論文奨励賞の授与を継続する。
- ・迅速な論文査読を徹底する。

#### ◎広報委員会：

- ・ホームページの充実と Facebook の活用を通じて本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動を強化する。
- ・ホームページ上のコンテンツ「技術情報」に「まぐね」連載講座を順次追加するなど、充実を図る。
- ・メールマガジンを随時発行し、各種研究会の開催情報や学会誌情報など、有用な情報をタイムリーに会員に提供する。
- ・会員のメリットを高めるため、技術情報サービスを定期的に発行し、磁気に関する最新の技術情報を会員に提供する。

#### ◎国際委員会：

- ・本学会と海外学協会との連携維持・強化を進め、国際的なプレゼンスを高める。

- ・学術講演会等における英語発表促進等の検討など、国際的な参加者(ポスドクや滞在研究者など)数を拡大する活動を開始する。